

## 7 警察犬

### Q 3 8 警察犬の仕事は何ですか。

A 犬は人間と比べて数千倍もの臭いを感じ取る能力（嗅覚といいます。）を持っています。警察ではこの能力を使い、警察犬として育て、現場に残されている臭いから犯人を捜し出す仕事など、捜査に役立っています。主な仕事は次のとおりです。

○ 足跡追及活動（足跡の臭いから追いかける）

人の残した臭いから、犯人や犯人の残していった遺留品、行方不明の人を見つけるものです。

○ 臭気選別活動（臭いで物の区別をする）

犯罪現場に残った犯人の物を保管しておき、容疑者が分かったときなどに、その物と容疑者の臭いを嗅ぎわけ、犯人を調べる方法です。

○ 捜索活動

一定の地域内から人や物を発見させるもので、迷子、行方不明者、遺留品などを探します。



### Q 3 9 警察犬は、何頭いるのですか。

A 直轄警察犬（全国の警察が直接飼育している警察犬）が、

千葉県 7頭（令和3年1月1日現在）

全国 157頭（令和3年1月1日現在）

嘱託警察犬（民間の訓練所で飼育している犬を年1回審査して、優秀な犬に警察犬として活動してもらっている。）が、

千葉県 37頭（令和3年1月1日現在）

全国 1, 143頭（令和3年1月1日現在）

です。

Q 4 0 警察犬は、シェパードしかなれないのですか。

A 家庭で飼われている犬は約60種といわれていますが、このうち警察犬に適しているのは、数種に限られています。

社団法人日本警察犬協会が警察用犬として登録している犬種は、

シェパード

ドーベルマン

コリー

エアデールテリア

ラブラドルレトリバー

ボクサー

ゴールデンレトリバー

の7犬種です。

特に、シェパードは

○ 鋭い感覚を持ち、運動ができる。

○ 頭が良く、我慢強い。

○ 落ち着いていて、言うことを聞き、やる気がある。

## Q 4 1 警察犬の訓練は、どのようなことをするのですか。

A 生後8か月から訓練を開始します。

○ 基本訓練（服従訓練）では、

停座（座る）

伏臥（伏せる）

立止（立って待つ）

脚側行進（訓練士の左側について動き、止まる）

物品持来（物をくわえて持ってくる）

などの基本的な動作を訓練します。

○ 応用訓練

基本訓練をマスターした後、応用訓練を開始します。



## Q 4 2 警察犬の制度は、いつごろできたのですか。

A ○ 外国での警察犬制度の始まり

1896年（29年）

ドイツのヒルデスハイム市警察で、警察官と一緒にパトロールする犬として警察犬が採用されました。

1899年（明治32年）

ベルギーのジェント市で、警察官の補助として警察犬が採用されました。

1908年（明治41年）

イギリスのケント州で、警察官の補助としてエアデルテリア犬種が警察犬として採用されました。

その後、警察活動で良い結果を多く得られたため、アメリカ、イタリア、ロシアなどでも警察犬を採用し、現在では数多くの国が捜査などに活用しています。

○ 日本の警察犬制度の始まり

1912年（大正元年）

警視庁がコリー犬種、ラブラドルレトリバー犬種の2頭を警察犬として採用しました。当時は犯罪捜査ではなく、防犯広報活動が目的でした。

1940年（昭和15年）

警視庁で、警察犬舎を設け、警察犬6頭を飼育しました（戦争のため一時廃止）。

1952年（昭和27年）

戦後再び警察犬が採用が検討され、警視庁で民間の訓練士に12頭の犬を警察犬として囑託しました（囑託警察犬制度の始まり）。

1956年（昭和31年）

警視庁で、本格的な直轄警察犬制度が発足しました（直轄警察犬制度の始まり）。